

5月19日千葉未来研究会セミナーがアカデミアで行われ、森田知事も出席され、政策研究大学院横断道教授の「地域を元気にする市町村合併」と言う講演がありましたが、私は他に主催する会議があり出席できませんでした。

出席した友人からの話と、この所私が読んだ月刊誌などの資料を折り混ぜて書いてみました。

この内容にすぐ賛否批判でなく、資料としてお読みくだされば幸甚であります。

政治には先見性が必要であります。今すぐ市民のニーズにすぐ対応する必要性と、少子高齢化人口大幅減、財源難の中で緊縮財政策、増税策は将来のための必要不可欠なものとなっても市民にとっては拒否感があります。

現在の政治を見ますと、政治とは次の選挙に当選するためにポピュリズム(大衆迎合主義)が邪魔をしております。

先日ある紙上に県内の若い市長が少子高齢化、人口大幅減、財政難に対して、次の時代に即したまちづくりをしなければ、まちの機能を維持できなくなるから・・・これを今すぐ市がやろうとすれば、市民は住み慣れた現状を変える事に大反対が起こります。市民は危険が目前に迫ってからでない出来ない、ポピュリズムがあります。

今のギリシャはまたその渦中にありながら、国の存亡よりも、今の生活を守ろうとする市民先見性統治能力を失った国の崩壊であります。

合併しなければならない大きな原因の一つに急速な人口の減少があります。日本の出生人口は凡そ75万人、死亡は凡そ150万人です。

2030年代には人口は9000万人台となり、それ以後は出生人口が46万人と予測されているので、2100年には5000万人となります。

当然、生産年齢人口も減少し、すでに52%位であります。欧米、中国では57%であります。

国民一人あたりの税収は65万円ですから、単純に1000万人減れば、6兆5千億減収です。社会保障費は逆に大幅に増大。しかし財政難によって年金の受け取りは70歳以上となり、掛金の40%位に減少すると言われております。

また、地域の社会保障を維持するには、人口30万人都市以上でなければ困難との定説があります。

旧君津郡4市の人口は凡そ32万人です。

合併すれば、中核都市となります。

核都市と言うイメージの存在感は、将来の社会保障等に不安を感じる人々が、大都市へ移住しておりますが、アクアラインを通じて都心に近く、緑豊かな田園中核都市としてのイメージは人口増へと繋がります。

観光面では、市境が無くなり、小さな市毎の都市間競争が無くなり、それぞれのポテンシャルを共有、共用、協働する事によってバランスの良い観光、案内、ルート策が生まれます。観光資源は4市へは1600万人出入人口があり、GDPは1万円あります。

観光は私達中小零細業者の生き残る道であります。

なぜ行政が合併に先行できないのか、ごく近い将来合併しなければ行政としての政的にサービスは維持できなくなると分かっているにもかかわらず、日本人は居住環境を変える事を嫌がり、時間がかかるから経済界が先行して路を開いてくださいとの思いが私達に課せられた会議所合併であります。注①西東京市は合併して、20万人合併行革効果は200億円